



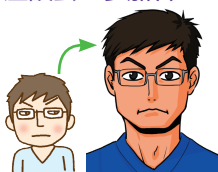
麻酔科医の実は…

Dr. さめきが こっそり聞き出す ホンネ

第11回 薬剤の聞き間違いをなくすには？

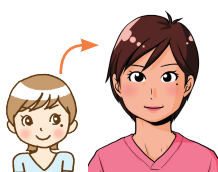
今回はオペナーシング 31 巻 11 月号の巻頭マンガ「**薬剤の聞き間違い**」から派生した聞き間違い（認知ミスによるヒューマンエラー）をなくすため、マンガから抜け出した看護師や麻酔科医が座談会！

座談会の参加者



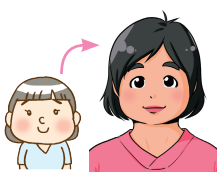
麻酔科医

桐山（麻酔一筋 20 年）
研修医のはじめを厳しくも熱く指導中。時に患者さんを想って厳しすぎることも…。



先輩ナース

すみれ先輩（10 年目 :32 歳）
手術看護認定看護師を目指すバリバリの主任ナース。おっちょこちょいのかずみさんが心配。



先輩ナース

さくら先輩（3 年目 :25 歳）
一人前ナース。プリセプターになるべく奮闘。おっとりしつつも勉強熱心。



手術室担当薬剤師

あおい先生（38 歳）
オベナースみんなの憧れ、クールビューティーな薬剤師。「自分の意見はしっかり主張」がモットー。



特別ゲスト：ICU 看護師

はづき（10 年目 :32 歳）
すみれと同期の ICU 主任看護師。教育担当として、日々業務を覚えやすくする方法を考え中。



さめちゃん：塩パパは、塩酸パパベリンの通称ですね。

桐山：塩パパと塩カルを間違えるとは、かずみちゃんらしいね。

すみれ：手術室の看護師なら、普通は間違えませんよ。塩パパを知っていたら。

あおい：塩パパが聞き取れなかったんですね。

はづき：私だったら「塩パパって何ですか？」って聞き直しますね。

桐山：わからなかったら聞き返したらよかったのね。

さくら：そうなんです。この「聞き返す」ということを恥ずかしがったり恐がったりしてはインシデントのもとなのです！

はづき：これは、入職時に先輩から何度も言われました。特に、言葉の思い込みはいけないと。少しでも不安があれば必ず復唱して確認しないと。

桐山：かずみちゃんは、「塩パパですね」と反復していたような気がしますね。

すみれ：そうなのですが、確認がいけなかったですね。

あおい：そうですね。あいまいなことが聞き直せなかった。

さめちゃん：そうですね。ただ、反復、復唱するだけでは意味がないですね。

あおい：認知ミスによるヒューマンエラーなんですね。



司会

讃岐美智哉

広島大学病院麻酔科講師。愛称はさめちゃん先生。難しいこともさめちゃんマジックで易しくなる！





さくら：認知ミスとは何ですか？

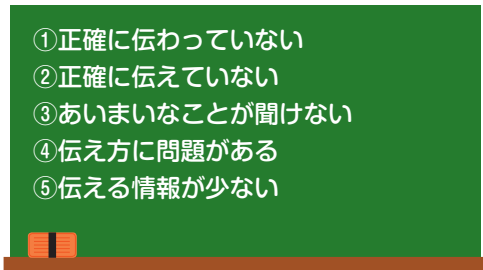
すみれ：ほら、ずっと前に病院の研修会でやった無知や無理解によるヒューマンエラーっていうのじゃない？

桐山：よく、思い出したね。そういうのがあったね。

あおい：対象を認識する際に、対象に対する知識が不足していたり、対象を十分に理解していないために間違いが起きることですよ。

はづき：私も、その研修会に参加しました。

さぬちゃん：そうですね。認知ミスによるヒューマンエラーには、5つの問題点¹⁾がありましたね。



あおい：「塩パパ」というのは、それを知らない人にとっては、5つの項目のすべてに問題がありますね。

桐山：そうか。「塩パパ」という言葉がわからないから、正確に伝わっていない。わからないから正確に伝えていないことにもなるのか。それから、あいまいだったのにそれを聞けなかった。伝え方に問題があった。伝える情報が少なかった。確かにそうだね。

さくら：1年生は要注意ですね。

あおい：対策はどうしたらよかったですか？

さぬちゃん：はづきさん、お願いします。

はづき：はい。「①正確に伝わっていない」ことに対しては、「復唱」が効果的ですね。「②正確に伝えていない」ことに対しては、その場での確認が有効です。これができないと、勝手に内容を改変するという事例がありました。

桐山：ああ、これか。伝えていないから、「塩パパ」を「塩カル」に改変されてしまったんだ。「塩モヒ」＝塩酸モルヒネでなくてよかった。

さぬちゃん：はづきさん、続きをお願いします。

はづき：はい。「③あいまいなことが聞けない」という場合には、聞ける雰囲気をつくるのが大切といわれています。

すみれ：かすみちゃん、私がコワイのかなー。

桐山：そんなことはないと思うよ。

さくら：コワイと思いますよ、十分。1年生にとっては、先輩は皆コワイと思っていますよ。自信がないから。



さぬちゃん：そうかもしれません。すみれさん、ちょっときつく言う時がありますからね。

すみれ：(しょぼーん)

さぬちゃん：すみれさん、そんなに気にしなくて大丈夫ですよ。新人看護師にとっては、先輩は恐くて当たり前ですから。仕事上でのことです。そのうち好感に変わりますよ。

すみれ：そうですね。

さぬちゃん：はづきさん、先をお願いします。

はづき：はい。「④伝え方に問題がある」ことに対しては、現場での実際の教育(OJT：オン・ザ・ジョブ・トレーニング)が大切です。医療現場では、どうしてそれを行うのか、なぜそれが必要なのかということも含めての実践での教育が必要です。

あおい：それでしたら、今回は、その実践トレーニングのチャンスではありませんでしたか。

桐山：いやいや。本来は、実践といっても1人で行うのではなく、先輩と一緒に教育訓練をすべきだと思うけどな。

すみれ：そうですね。手術室では、最初の3カ月は先輩について2人で外回りを行うことになっています。しかし、教育訓練を実際の患者さんではなくシミュレーションで行う時間を設けていません。

はづき：でしたら、そういう機会を設けてはどうでしょうか。ICUでは、起こりうることを想定して定期的にシミュレーショントレーニングをしています。

桐山：そうだね。ICUではしているのに、手術室ではどうしてそれが無いのかが気になっていたんだ。

さくら：そういうことを考えないといけないのかもしれないね。本当にきちんと教育を考えるにはね。

さぬちゃん：いいことですね。一人前になるには、自分の失敗した経験だけでは時間がかかりすぎるし、本人の経験だけでは多くを経験することはなかなか難しいですね。手術室の場合、予定手術では起こりうることは限られるから、きちんとやれば一定の効果が出ると思いますよ。もう一つ、ありましたよね。はづきさん。

はづき：はい。「⑤伝える情報が少ない」ということに関しては、どうしてそういう方法ややり方になったのかを認識できるようにすること(暗黙知の顕在化)が必要だといわれています。つまり、今回はどうしてその呼び方になっているのかを知っていればよいということですね。塩酸パパペリンだから、短く略して塩パパですね。

あおい：塩パパと言われても、聞き慣れないとピンときませんから、そのように手術室で呼ばれていること、何の略かを知っていることが大事ですね。



さめちゃん：はづきさん、ありがとうございました。

はづき：ところで、間違えられた塩カルは、どうして知っていたんでしょうね。

さくら：以前に、輸血の時にはじめ先生に言われて、取ってきたことがあったようです。

桐山：やはり。一度、実際に取ってきたものはわかるんだから、次からは塩パパを間違えないだろうね。

さくら：そう思います。

あおい：じゃあ、今回は、OJTになったんじゃないですか。

はづき：そうですね。

桐山：習うより慣れろだね。

あおい：まあ、患者さんに危害は加わらなかったからよいですよ。

さめちゃん：いろいろ、討論していると、勉強になりますね。続きは「しっかりじっくり薬剤ばなし」でね。



■引用・参考文献

- 1) “認知ミス（無知・無理解）によるヒューマンエラー”. humanerror. (<http://www.humanerror.jp/ignorant.html>).

00000000

Dr.さめきしクチャー...



オペナーシング 31 巻 11 月号の**しっかりじっくり薬剤ばなし**では、聞き間違いやすい薬剤をじっくり解説！塩パパから始まり、塩化カリウムと塩化カルシウムの誤認防止の方法、さらに低カリウム血症・低カルシウム血症・高カリウム血症・高カルシウム血症についてきっちり解説。しっかり読んで薬剤の知識を深めましょう！